

## 2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 9 日

所属	商経学部	職名	准教授	氏名	越川 靖子
研究課題	ブランドネームにおける日本語の影響と日本語の印象についての研究 地方・地域に関する精神面における研究				
研究キーワード	ブランドネーム、日本語、五十音、音象徴	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	11. 住み続けられるまちづくりを	8. 働きがいも経済成長も	4. 質の高い教育をみんなに	

## 1. 研究成果の概要

本年度は地域創生に関する発表を4つそれぞれ異なるテーマで行い、著書（共著）は1章分を担当し、成果として出すことができた。寺社にまつわる日本人の精神性、地方コミュニティのあり方、オンラインとリアルとの鞍点の模索、東京の発展について、研究を行なった。これらは地方創生に関わるものであり、調べれば調べほど、日本の状況は憂慮すべきものであることがわかる。深く研究するためにも2025年の科研費が必要であり、2024年度のこれらの研究は挑戦するための基礎となる。

地域に関する研究に関して論文（査読あり）、および、グローバルでのつながりの研究に関して、著書・共著の1章分を担当しており、2025年3月末が締め切りであり、現在結果待ちをしている。

研究課題に関しては、英語論文を執筆しており、思いの外時間がかかっている。日本語のオノマトペを表現することの難しさを実感している。2023年度は清音の与えるイメージの調査を行ったが、各年代で違いに大きな違いがあるものが少数見られた。2024年度は濁音・半濁音・拗音の調査を行った。清音と比べるととらえ方に違いがかなりあり、特徴といえる点が多くみられた。これらから、アンケート調査を行う予定であったが、調査票作成に難航している。解決したいことを網羅するための、方法や質問が絞りきれず見つかっていないが、科研費最終年度であるため解決策を速やかに出せるよう日々取り組んでいる。成果を海外学会で発表することも考えている。

## 2. 著書・論文・学会発表等

（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

## 【論文（査読あり）】

「第9章 エンタメビジネスによる広域型グローバルトポスの形成」、『都市・郊外・村落の価値発現～コンテキストとしての境界融合と関係編集の展開～』、共著、2025年秋予定、学文社

## 【著書・論文（査読なし）】

なし

## 【学会発表等】

「寺社におけるコンテキスト転換—空間用途の関係編集による新価値創造へ—」、地域デザイン学会 第7回地域デザイン研究推進フォーラム、2024年6月、明治大学

「コミュニティって必要?」、地域デザイン学会 第13回全国大会、2024年8月31日、東海大学湘南キャンパス

「フェスやライブにおけるリアルとオンラインの融合・分離」、地域デザイン学会 第3回アート&フェスフォーラム、2024年12月、千葉商科大学

「東京が選ばれる精神面からの考察」、地域デザイン学会 第8回地域デザイン研究推進フォーラム、2025年3月、東海大学品川キャンパス

### 3. 主な経費

24 インチ iMac Retina 4.5K 10 コア CPU と 10 コア GPU を搭載した APPLE M4 チップ、メモリ 16GB/SSD256GB モデル、Teams を用いての研究ミーティングが円滑に行うことができること、複数タスクを同時に進めることができること、最新のソフトウェア（統計処理等）を使用するには新しい OS であることが望ましいことから購入した。

### 4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

#### 【科学研究費】

- ・ 基盤研究 (C) : 令和4年度～令和7年度、代表者、課題名「五十音音象徴の体系化への挑戦」(22K01767)

#### 【その他の活動】

- ・ 地域デザイン学会フォーラム委員
- ・ 地域デザイン学会、学会理事
- ・ マーケティング史学会、論文編集委員
- ・ マーケティング史学会、事務局

(本文は2ページ以内にまとめること)